

改革派官僚・古賀茂明氏が退職…彼を登用しない野田首相、民主党の正体

あの改革派官僚、古賀茂明さんが、9月26日付で経済産業省を退職しました。枝野幸男経産大臣から「人事は事務方にまかせてある」「辞めるならどうぞ」と言われたからです。

古賀茂明氏。彼が書いた「国家中枢の崩壊」「官僚の責任」は40万部を売り上げ、この種の本にしてはめずらしい大ベストセラーになっています。実は、彼は、私の旧通産省時代の一年下の後輩で、若い時からよく知っていますが、いつも沈着冷静、政策志向で、まじめな男です。

彼は、この国の「かたち」を変えるために避けては通れない「公務員制度改革」を訴えて、政府内で左遷されました。政権交代前は、彼の主張と変わらないマニフェストを掲げていた民主党が、彼を登用せず、排除したことでもってしても、野田首相をはじめ、この政党の正体がわかるというものです。なぜなら、霞が関の「虎の尾」を踏んだ古賀氏を登用することは、官僚、特に財務官僚に政権運営を託した野田首相にとって「命とり」になるからです。

松下幸之助翁に長年秘書として仕え、野田首相が通った「松下政経塾」創設の立役者、野田氏の面接官だった江口克彦参院議員(みんなの党)は、その財務官僚が主導する増税路線をひたすら突っ走る野田首相に対し、「松下幸之助翁がご存命なら、野田君、キミ、総理をやめたまえ！」と眼光鋭くにらみつけながら言つただろうとまで国会で酷評しました。幸之助翁の「政治家の使命は、いかに税金を低く抑えるかにある」という教えに背くというわけです。

国民一人あたり 100 万円の外貨預金で 40 万円の損失！…江田が予算委で追及

財務省が所管する「外国為替資金特別会計」。ここに 100 兆円の外貨準備(資産)があります。すべて、国民からの借金(短期国債)で資金が調達され、その大部分は米国債に投資されています。

それが、この急激な円高で莫大な損失を出しているのです。その額はなんと 40 兆円！国民一人あたりにすれば、「100 万円の外貨預金をして 40 万円の損」を出していることになります。

これが民間会社であれば、即刻、社長はクビです。しかし、当の財務省は逆に開き直り、この外為特会にある「積立金 20 兆円」を復興財源に使えない理由にしています。国民のお金を 100 兆円も預かる、資産運用の当事者でありながら、漫然と巨額の外貨資産を放置した結果が、この莫大な国民的損失なのです。

そして、この一番の責任者が、何を隠そう、現総理の野田さんなのです。この「為替差損」は、右図でみると、政権交代後のこの二年間で、26 兆、35 兆、そして直

近では 40 兆円と、積立金(為替リスクの準備金)をはるかに上回る規模で急激に増えているのです。その間、財務副大臣、財務大臣を野田さんは務めていた。

そうした、本来なら「クビ」の人が、この政府の中では総理に「出世」しました。そして、この事実を多くの国民が知りません。メディアもなぜか黙殺しています。私が予算委で追及しても、野田首相は、責任のかけらも感じていませんでした。

